

令和3・4年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校

小中一貫教育

光が丘第二中学校 光が丘春の風小学校



研究主題

「豊かな心の育成を実現していく小中一貫教育の取組」

～児童生徒一人一人の幸せを求めて～

《令和3年度の取組》

- ◇合同研究授業・研究会を年7回実施
- ◇小中合同で道徳部会・特別活動部会・特別支援部会を設定し、指導案検討や協議を実施



小中合同研究授業



小中合同研究協議会

【児童・生徒の日常的な交流活動】



オンライン中学校説明朝会



小中合同あいさつ運動



小中学級活動交流会



算数リトルティーチャー



図書委員による読み聞かせ



小中合同クリーン運動

特別活動分科会

◇「目指す 15 歳の姿」にせまるために、学級活動（1）に観点を絞り実践に取り組んだ。

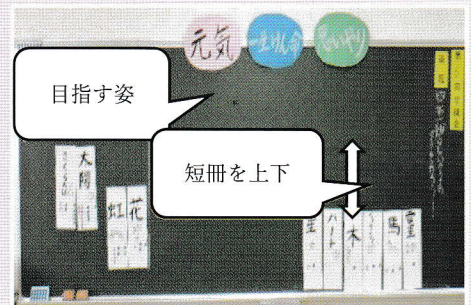
◇具体的な姿を次の3点とした。

- ①【方法を知る】話し合っ解決することや、他者と協働して取り組むことを大切にできる子ども。
- ②【実践する】多様な意見を生かして合意形成を図り、実践できる子ども。
- ③【深い学び】身に付けたことを生かして、所属する様々な集団の人間関係をよりよく形成し、日常生活の向上を図ろうとする子ども。

【小学校での取組】

◇「②多様な意見を生かして合意形成を図りやすくするための手立てを考え取り組んだ。

1. 提案理由の言葉を具体的に児童に提示
→自分たちの目指す姿を共通理解することができ、意見の根拠として発言する児童が見られた。
2. 黒板上で座標軸を用いて短冊を操作し、意見を可視化
→可視化することで、意見の収束に向けての過程が実感を伴い分かりやすくなった。



《課題》発言者の偏りが見られる、議題をより自分事として捉えさせる工夫が必要である。

【中学校での取組】

《中学1年生》

『来年中学生になる小学生の不安にアドバイスをしよう！』

- 中学生になることに不安を抱えている小学生にアンケートを実施。
- アンケート結果で多かった人間関係についての悩みについて、小学生の不安が解消できるようなアドバイスを考えていく。

《成果》自分も感じていた心配事を共有し、それぞれの体験談を交えて伝えることで親近感をもつことができた。

《中学2年生》

『クラスの団結力を高めることができる取組の計画を立てよう！』

- Google フォームを使ったアンケートの結果、「クラスの団結力が弱い」という課題が明確になった。
- 普段の生活の中でも団結力を発揮するためにはどうすればよいか話し合いを行い、球技大会を実施した。

《成果》多くの生徒が意見を発することができ、学級会を通して一人一人がクラスの課題に向き合い、実施に向けた取組や球技大会を通じて団結力を高めることができた。

《中学3年生》

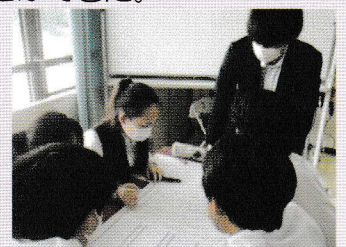
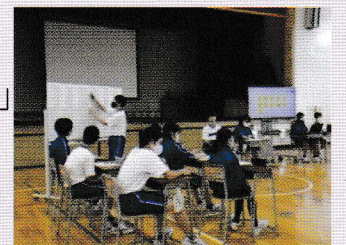
『全員が楽しめる修学旅行を目指して

～修学旅行のスローガンと班行動の心掛けについて考える～』

- 全生徒が「楽しかった」と思える修学旅行にする。
- ルールや公衆道徳を守る大切さに気付かせ、協力してより良い修学旅行を創りあげることができるよう、各クラスでの意見交換を行った。

《成果》各クラスで考えたルールを意識しながら修学旅行が実施できるよう、しおりに載せたり、普段から意識して行動したりしていくことができた。

（修学旅行は9月に実施予定だったが3月に延期）



道徳分科会

道徳分科会では「豊かな心の育成を実現していく小中一貫教育の取組」を目指し、以下の目標を設定した。

道徳教育＜構想図より＞

- 自己理解及び他者理解に努め、思いやりをもって行動しようとする生徒を育成する。
- 規範意識や社会性を身に付け、社会の一員として正しく行動しようとする生徒を育成する。

この目標を具現化するために今年度以下のような活動を行った。

《7月14日（水）光が丘第二中学校道徳授業地区公開講座 春の風小学校教員参観》

◇共通項目

相互理解、寛容【B（9）】1年「言葉の向こうに」2年「ジコチュウ」3年「アイツとオレ」

◇道徳分科会による検討

- 中心発問の問い方と板書の必要性
- 効果的な板書の仕方
- 話し合い活動の形態の工夫
- 生徒からの意見の出させ方

《8月27日（金）道徳分科会 「目指す15歳の姿」の決定》

＜道徳の目指す生徒像＞

- 希望と勇気をもち、夢に向かう子（中学校内容項目 A4に関連）
- 思いやりの心をもち、支え合える子（中学校内容項目 B6に関連）
- 自ら考え、社会に参画する子（中学校内容項目 C12に関連）

《11月15日（月）児童生徒実態調査アンケート（道徳に関して）実施》

道徳の授業が好きかどうかなど重点内容項目について、児童・生徒の意識調査を行った。

【考察】

- 小中学生とも、道徳が好きだという傾向が見られた。
- 道徳授業について「自分のこととして考えることができる」や「他の人のいろいろな考えを知ることができる」という項目にプラスの意見を挙げている児童生徒も多いが、マイナスの意見を出している児童生徒も一定数いるため、今後、指導の工夫が必要である。
- 重点項目の「親切」や「夢や目標をもつ」という点については「親切にしようと思っているがなかなかできない。」「目標があってもあきらめてしまうことがある。」と答える児童生徒が半数近くいるため、継続して指導していく必要がある。

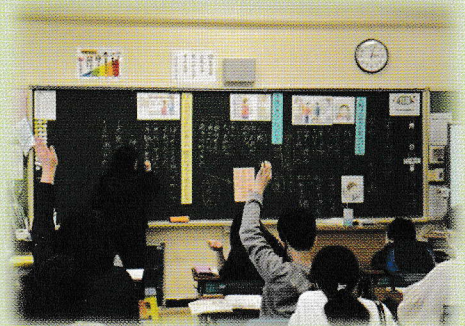
《11月19日（金）道徳授業参観・道徳分科会》

◇授業者 光が丘春の風小学校 主幹教諭 五十嵐明子先生

◇教材「友のしょうぞう画」項目 B 友情、信頼

◇道徳分科会

- 指導案形式の検討
- 教材分析の方法
- アンケート利用による導入
- 児童を引き込む教材提示
- 中心発問の設定の仕方
- 効果的な板書
- 意図的指名 等



特別支援教育分科会

- ◇特別支援教育分科会は、特別活動と道徳を円滑に進めていくために、各分科会を支える役割として位置付け、配慮を要する児童生徒へのより効果的な支援の在り方などを共有する。
- ◇教職員の特別支援教育への理解を深めるために、研修や情報提供に努める。

教員を対象にアンケートを実施し、特別支援教育に対するニーズを把握

	光が丘春の風小学校	光が丘第二中学校
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集団指導における個への対応 ・保護者対応 ・外部機関との関係 ・支援する児童について、他の児童にどう伝えるか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応 ・課題のある生徒それぞれへの具体的な声掛けや対応 など
知りたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応 ・具体的かつ現実的な支援方法 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への具体的な支援方法 ・保護者対応 など

今後の活動方針

- ・アンケートの結果をもとに、合同研修会を実施する。
- ・各校の校内委員会や資料等を活用し、引継ぎシステムの構築をする。

まとめ

年度初めは新型コロナウイルスの影響で、小中学校の交流をなかなかもつことができなかった。しかし、表紙にある、小中合同クリーン運動や、算数リトルティーチャー、図書委員による読み聞かせ、小中合同あいさつ運動、オンライン学校説明朝会、両校の朝会での校長講話などを実施することができた。

1学期には、2校の教員対象に児童生徒の課題に関するアンケートを実施した。これをもとに『目指す15歳の姿』を作成し、児童生徒一人一人の幸せを求め、目指すべきゴールを設定した。これに向けた取組として、「特別活動」、「道徳」、「特別支援教育」を3つの柱とし、今年度は「特別活動」に力を入れて実践を積み重ねてきた。

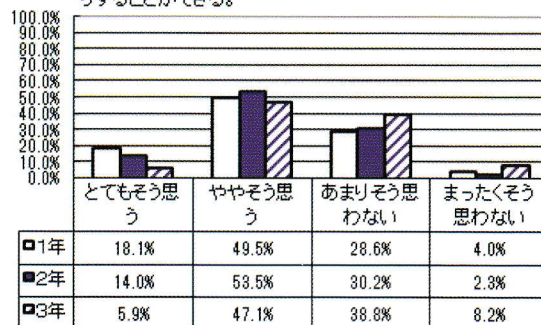
2学期には、2校の児童生徒を対象に、『目指す15歳の姿』に向けた「特別活動」と「道徳」のアンケートを実施した。右下図は中学校特別活動の結果の一例である。

来年度は「特別活動」だけでなく、「道徳」の研究授業や「特別支援教育」として「のぞみ学級」「ひかりルーム」との関わりも視野に入れ活動していく。

目指す15歳の姿

- ①自分で課題を見つけ、自分で考え、解決していく人
- ②自分の考えを言葉などで表現し、伝えられる人
- ③思いやりの心を言葉や行動で相手に伝えられる人
- ④自分から元気にあいさつできる人
- ⑤かけがえのない自分を大切にする人
- ⑥夢や希望をもってチャレンジしていく人

12. クラスをよりよくするために、意見を言ったり行動したりすることができる。



【練馬区の小中一貫教育】

次の3つの視点から、学習意欲や自己肯定感の向上、授業改善による学力・体力の向上、不登校の減少を目指し、9年間を見通した小中一貫教育に取り組むことで、子供たちの力を高めていく。
 授業改善による学力・体力の向上
 連携指導による豊かな人間性・社会性の育成
 滑らかな接続による安定した学校生活

研究主題

「豊かな心の育成を実現していく小中一貫教育の取組」
 ～児童生徒一人一人の幸せを求めて～

《研究仮説》

小中の継続した教育活動を行うことで、系統的、累積的に活動が強化され、豊かな心の育成が実現できるだろう。

《光が丘第二中学校の生徒の実態》

- 学習課題に意欲的に取り組もうとする姿勢が見られる。
- 落ち着いて学校生活が送れている。
- 失敗をおそれ、自己表現がやや苦手である。
- 自ら課題を見つけ解決することに課題が見られる。

《光が丘春の風小学校の児童の実態》

- やるべきことを行い、学んだことを確実に自分の力にすることができる。
- 自ら考えて行動したり、自分の考えを相手に伝えたりする力に課題がある。
- 友達や周囲の人とのより良い関係を築くことが苦手である。

《豊かな心の育成 = めざす15歳の姿》

- ①自分で課題を見つけ、自分で考え、解決していく人
- ②自分の考えを言葉などで表現し、伝えられる人
- ③思いやりの心を言葉や行動で相手に伝えられる人
- ④自分から元気にあいさつできる人
- ⑤かけがえのない自分を大切にする人
- ⑥夢や希望をもってチャレンジしていく人

《児童生徒一人一人の幸せ》

- ◇主体的、協働的、深い学び
- ◇多様性への対応
- ◇自己肯定感
- ◇自己実現

3つの視点から実現を目指す

《特別活動》

- ◇主体的、協働的な活動
- ◇表現力・行動力・実践力
- ◇改善意識・向上意識
- ◇自己実現

学級活動(1)【=学級会】に観点を絞り、具体的に示していく。

- ①合意形成の方法を理解している。
- ②学級や学校・社会生活の充実・向上のために課題を見つけ、話し合い、解決できる。
- ③より良い人間関係を形成することができる。

《道徳教育》

- ◇道徳的実践力
- ◇自己理解・他者理解
- ◇自己肯定感の向上
- ◇思いやりの心を具現化する
- ◇規範意識や社会性

「豊かな心の育成、めざす15歳の姿」①～⑥の力を育むために道徳教育においては以下の3点に重点項目を定めた。

- ①思いやりの心をもって支え合える子
- ②希望と勇気をもち夢に向かう子
- ③自ら考え、社会に参画する子

《特別支援教育》

- ◇細やかな指導の充実
- ◇自立的・主体的な取組
- ◇自己肯定感の向上
- ◇小中のなめらかな接続
- ◇特別支援教育への理解

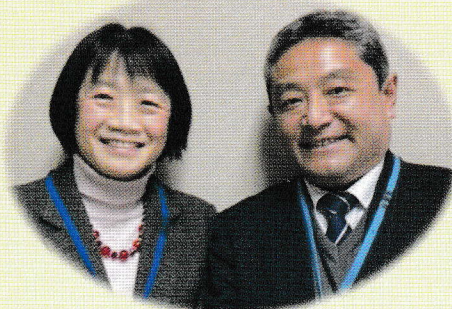
実態調査の項目について

- ・各分科会で重点を決めたり、目的に合わせて精選したりする必要があると考える。
- ・中学生ベースで項目を決め、小学生の学年に合わせた言葉にする。
- ・「①あてはまる～④あてはまらない」のような形で回答できるようにする。

あいさつ

光が丘第二中学校 校長 山田 美鈴

光が丘春の風小学校 校長 内木 勉



今年度より2年間にわたり練馬区教育委員会教育課題研究校の指定を受け、隣接する光が丘第二中学校と光が丘春の風小学校との2校で、「豊かな心の育成を実現していく小中一貫教育の取組～児童生徒一人一人の幸せを求めて～」を研究主題に定め、3分科会に分かれて研究を進めております。

義務教育9年間の連続した学びを充実させるためには「目指す15歳の姿」を明確にし、2校の実態把握をもとに研究を進めていく必要があるとして、研究主任を中心に試行錯誤を繰り返しつつ児童生徒アンケート調査や合同研究授業に取り組んでまいりました。研究を進めていく中、やはり日頃からの小中交流活動が基盤であるとし、生徒会・児童会主体の行事や有志によるボランティア活動などを積極的に実施してまいりました。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大が今年度も猛威を振るい、交流活動を制限せざるを得ない状況となってしまいました。そのような状況下であってもICT機器を活用するなどの工夫を重ね、2年目に当たる来年度はより一層の研究を深めていけるよう、2校で協力してまいります。

本研究を機に教職員一人一人の実践的指導力を高め、地域に根ざした魅力ある小中一貫教育実践校として発展していけるよう引き続き取り組んでまいります。

結びに本研究の推進にあたりご指導をいただきました総合初等教育研究所室長福田俊彦先生、研究の機会をいただきました練馬区教育委員会の皆様に心より感謝し厚く御礼申し上げます。

令和3・4年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校

小中一貫教育

研究発表

令和5年2月17日(金)

参加された方には
指導案や資料を
データでお渡しします

学級活動・道徳を
小中全学年で
授業公開

小学校・中学校
全学年・全学級の
授業が見られます

【講演】

令和の日本型学校教育に観る児童生徒一人一人の幸せ(仮)

一般財団法人 総合初等教育研究所 室長 福田 俊彦 先生